

「学びを止めるな！ SPRING CAMP 大作戦!!」 ～二〇二〇年度春 新型コロナ休校期間中の奮闘記～

箕面自由学園高等学校

伊藤 伸昭

はじめに

私が勤務する箕面自由学園高等学校は、二〇一九年度の入学からiPadおよび教育ツール、クラッシーを導入し、二〇二〇年度にようやく全学年の生徒がiPadを持つようになるというような、まだまだICT教育については発展途上の学校である。

私はその導入初年度のI類特進コースの担任を持ち上がり、現在は二年生の担任（二〇二〇年度現在）をしているが、自身としてもICTに長けているわけではなく、導入初年度からiPadを授業で使い始めたという素人である。そのような私でも、これから紹介する下記のような取り組みに参加し、生徒に学ぶ場を提供することができたことをまずはお伝えしておきたい。

もちろん、情報部の教員からさまざまな形でサポートを受けることができ、それによりこの新型コロナ休校期間を何とか乗り越えることができたということは、是非とも申し添えなければならぬ。

を軸に、英数の取り組みを強化した。また、教員の活動としては成績処理や指導要録の作成等、通常の年度末業務に加え、今後の遠隔授業に向けて、授業動画等の準備をすすめる期間とした。

《生徒の活動》

- ・スタディサポートに向けての事前学習（事前学習冊子および教員作成の学習指図書）
- ・デイリーイングリッシュ（クラッシーノートを活用した遠隔の授業で、生徒からの質問にもその場で対応する）
- ・ナイングリッシュ（夜九時にイングリッシュをやるという取り組みで、クラッシーのWEBテストを用いた英単語テスト）
- ・毎日数学（クラッシーのWEBテスト）
- ・健康調査の入力（クラッシーのアンケート機能を用いた検温結果またコメントの記入）
- ・学習記録の入力（毎日の学習時間や内容の記入）

《教員の活動》

- ・クラッシーでの課題やテストの配信
- ・毎日の学習記録、健康調査のチェック
- ・年度末業務
- ・授業動画の作成（休校が新年度になっても続くことを想定し、多めに授業を撮り溜める）

このような活動を続け、二〇一九年度は終了した。

また、取り組み全体の発案、指揮を担い、生徒達や教員をいつでもポジティブにマイインドセットさせる、そんな学年主任の指導力や個性が成功の大きな要因であったことも付け加えさせていただきます。

そのような環境下で実施した、二〇二〇年度春の新型コロナ休校期間中の取り組みについて、拙文かつ未熟な考察が含まれますことをご容赦をお願いしつつ、時間軸に沿って紹介していきます。

題して「学びを止めるな！ SPRING CAMP 大作戦!!」である。

二〇一九年度三学期

～政府からの臨時休校要請を受けて～

二〇二〇年二月二十七日、臨時休校の要請が内閣総理大臣より出され、本校でも三月四日より本格的な休校期間に突入した。以下新年度までの取り組みをまず紹介したいのであるが、その前に、これから何度も登場する教育ICTツール、クラッシーとクラッシーノートについて、

二〇二〇年度新学年スタート

～SPRING CAMP ロケットスタート成功！～

四月、新年度がスタート。しかし始業式は延期され、課題の提出や今後の休校期間の課題の配信、そして生徒達の健康面を含む現状把握に主眼を置いた登校日に置き換え、新年度をスタートさせた。以下、当初予定されていた五月連休明けまでの取り組みを紹介する。

なお、登校日に関しては次の方法で実施した。
時間…各クラス十五分の時間差をつけて登校
場所…食堂前の中庭（いわゆる青空教室）
内容…健康確認、課題提出、課題配付
服装…私服

【四月七日～五月八日】

授業動画やクラッシー等を用いた、本格的な遠隔での授業「SPRING CAMP」がスタート。実施内容は以下の通りである。

《生徒の活動》

- ・八時までに学習記録・健康調査を入力
- ・八時に担任からクラッシーで配信される朝礼の内容を確認
- ・九時十分より各教科の遠隔授業を受講
- ・七限の自習を終え、担任より配信される終礼の内容を確認
- ・ナイングリッシュ（クラッシーのWEBテスト）および夜学習の実施

ここで簡単に説明をしておきたい。

クラッシーは、ベネッセとソフトバンクを株主に有する教育プラットフォームサービスである。本校の教員がよく使用する機能はWEBテスト、WEBアンケート、また学習記録（コメントも入力可）や校内グループ（掲示板機能）、そしてコンテンツボックス（さまざまなデータを保存共有することができるもの）などである。クラッシーノートは、クラッシーの連携サービスの一つで、生徒に授業用シートを配信し、その上に文字や描画等で解答などを書かせたり、写真を添付させたりするもの。リアルタイムかつ双方向型であるため、その場で質問に返答することや、生徒達から出てきたよい解答例なども、その場で共有できる。またグループワークやプレゼンなどにも使えるため、アクティブラーニングツールとしても活用可能なものである。

それらを使い、以下の活動を実施していった。
【三月四日～四月六日（春期講習）】
この期間はスタディサポートに向けての学習

《教員の活動》

- ・学年朝礼（クラッシーやLINEを用いた学年教員間の情報共有）
- ・学習記録、健康調査のチェック
- ・担任業務（クラッシーでの朝終礼の配信）
- ・WEBテストの配信やクラッシーノートの配信およびチェック、また動画授業の配信等、遠隔授業の実施。

以上のような内容で、毎日通常の授業を実施していった。なお、時間割については左のとおりである。

時間	月	火	水	木	金	土
9:10~9:55	1 英語	英語	英語	英語	英語	英語
10:05~10:50	2 数学	数学	数学	数学	数学	数学
11:00~11:45	3 国語	国語	国語	国語	国語	国語
11:55~12:40	4	自習				
13:25~14:10	5	化学	物/生	化学	物/生	化学
14:20~15:05	6	日/世	地理	日/世	地理	日/世
15:15~16:00	7	自習				
21時	ナイングリッシュ					
21:00スタート						

ここから、国語科の取り組みについて、私の具体的な実践例と共に紹介させていただきます。

【国語科の授業内容】

現代文Bと古典Bを日毎に交互で実施。各時

間で取り組む内容は登校日にプリント冊子として配付しておいた。また各授業の開始時に漢字や古文単語の小テスト（クラッシーのWEBテスト）を実施。日々の課題提出には、クラッシーノートを活用した。提出期限を自習終了時間の十六時に定め、毎日生徒の提出状況をチェックするとともに、生徒からの質問や依頼についてもその中で掌握していった。また正答率の低い問題についてはその日のうちに全体に解説を行った。以下は各科目の授業内容一覧と実践方法である。

【現代文】(15分)

・『山月記』・『手の変幻』・『国境を越える言葉』
・評論文速読演習プリント

冊子のプリント学習後に授業動画を視聴させて問題で配信し、理解度の確認を行う。

【古文】(15分)

・十訓抄『大江山』・伊勢物語『初冠』
・大和物語『をばすて山』・更級日記『東路の道の果て』『物語』

冊子のプリントに口語訳を書かせる。その後解説の授業動画を視聴し、答え合わせをさせる。

【漢文】(15分)

・『莊子』・『荀子』・『戦国策』・『呂氏春秋』・『新五代史』・『搜神記』・『郁離子』

冊子のプリントに書き下し文を書かせる。その後解説の授業動画を視聴し、答え合わせをさせる。

せる。

【私の実践例】

以上が各科目の授業内容であるが、その中から私の実践例として、現代文B『山月記』の授業展開と評論文の解説授業動画の作成事例について紹介することとする。

『山月記』の事前配付物については意味調べと漢詩のプリントとし、毎時間の漢字の小テスト後に、その日に学習する段落の意味調べをさせた。その後、本文の解説動画（教室のプロジェクトで黒板に本文を写し出して解説をするチャート&トーク形式）を視聴させ、授業時間内の活動は終了。そして、ナイングリッシュに合わせて、その日に学習した内容についての問題と解答解説を配信するという形をとった。

『山月記』の授業動画は、全部で十二回（各回、十五分程度）となったのだが、その中で漢詩についてはiPadの画面録画を採用した。生徒に配付した物と同じ漢詩のプリントをiPadで映し出し、解説をしながら重要事項（対句や押韻の説明等）をタッチペンで書き込んでいくというもので、それを音声付きで録画し授業動画とした。対面授業と同じく教員の指導の手が可視化される、そんな授業動画が簡単に作成できるので画面録画は非常に有用であると感じた。

また評論文の解説では、パワーポイントのスライドショーの記録を用いて動画を作成した。アニメーションが効果的で、かつ解説をする教

員の姿（顔）もスライドの下に映し出せるため、分かりやすさに加えて、生徒の注視と共感を生みやすい方法であると感じた。そのような授業動画が手間なく作れるため、この方法は今後の授業動画の主流になるのではと考えている。

そのようにして作成した授業動画はGoogle Drive（動画や写真などのデータを誰でも保存できるツール）に保存し、生徒に共有するという方法を採用した。具体的には共有したい動画にリンクするためのURLを取得し、それを生徒に教えることで視聴を可能にした。

このような遠隔授業を新年度からスタートさせ、取り組み率や提出率を見る限り、我々の予想を遙かに上回る良好な出だしを見せたのである。まさにロケットスタート大成功であった。

クラッシーがつかない?!

〜大ピンチ到来!!〜

このように順調に滑り出したSPRING CAMPであったが、大きなピンチを迎えることになる。それはクラッシーの不具合である。日本全国ほとんどの学校が休校になり、その需要の高まりが影響したのである。詳しくはここでは述べないが、ロゲインができない（非常に遅い）、またWEBテストが受験できない（できても未受験となる）という事象が発生したのである。最初のうちはそのような状態でも何とかロゲインし、授業の指示を受けようと努

力していた生徒達も、そのような状態が何日か続くと、そのストレスも高じ、徐々に取り組みが鈍くなってしまったのである。もともと数日で、ある程度クラッシーは復旧したのであるが、序盤に本校の取り組みの生命線であるクラッシーが使えないという大ピンチを迎えたのであった。

では、それをいかにして乗り越えたか。その切り札の一つが面談であったように思う。

Zoomや、連絡手段として採用したGoogle Classroom（クラッシーのようにクラスを作成し、連絡や課題の配信もできる教育ICTツール）などを活用し、なんとか生徒を励まし、前向きにこのSPRING CAMPに取り組ませる。そのため声かけの場として面談を行おうと決めたのである。休校期間中、各担任は少なくとも二〜三回の個人面談を行うとともに、ZoomでのHRも複数回行った。また、面談の際に前向きにマインドセットできるように、パブリックコメントも採用し、自身の目標をクラスの皆に公表するという取り組みを行ったことも有効であったと感じている。

そしてもう一つの切り札が可視的な到達目標の設定にあったと考える。ロゲインしにくかった日の課題を消化するため、授業を止めてリフレクシオンデイを設定し、全員が課題やWEBテストを完全にやり切るという目標を設定した。そして取り組み率や得点率に応じた細かい表彰

制度を設け、多くの生徒が表彰される機会を設定した。また休校期間最終日に各教科の確認テストをSPRING CAMP CHALLENGE TEST

（クラッシーのWEBテストを使用）と銘打って実施するなど、目に見える目標設定を行い、生徒の前向きな頑張りを喚起した。このような形で何とか生徒のやる気を鼓舞し、四月を乗り越えることができたのであった。

予想通りの休校延期…なげ

〜SPRING CAMP RELOADED 開始〜

【五月九日〜五月三十一日】

五月の連休明けからの学校再開を期待しつつも、予想はしていたが、やはり休校期間は延期され、SPRING CAMPもRELOADED（再充填）して再びスタートすることになった。しかし、この頃には生徒達も遠隔授業にすっかり慣れ、ポジティブに日々の授業に臨み、最後に二度目のCHALLENGE TESTもやり切って、長かった休校期間は終わりを告げたのであった。

休校期間終了

〜全体を振り返ってみて〜

【良かった点】

・面談は前向きなマインドセットに効果的であった
・リフレクシオンはとても有効で、きちんとできた生徒には余暇を与え、取り組みが不十分

な生徒には危機感を持たせられた

一つのデバイス、ツールだけでなく、リスクマネジメントの観点から複数を用いる（想定、準備しておく）ことが重要だと感じた
・表彰制度の充実実は生徒のモチベーションアップのために不可欠であったと考える
・生徒の自宅のWi-Fi環境について、当初は多くの危惧があったが、結果的に不自由であった生徒はごく僅かであった

【反省、今後の課題】

・右の内容と矛盾するが、リフレクシオンについては、それを回避するために課題を作業的にこなし、身につけていないことがあった
・常に最新かつ即時性が求められるリフレクシオンのデータ更新に最初はかなりの負荷を感じた（自身のデジタルスキルの問題も含む）
・自宅で一人iPadに向かう生徒の集中力の維持および学びの質の確保が難しかった
・教員のワークライフバランスの確立が難しく感じた（ワークシェアの重要性も再認識）

思い返すに多くのことが想起され、枚挙にいとまがない感もあるが、誌面の関係上、率直に感じたことだけを挙げさせてもらった。

新型コロナウイルス対策、またニューノーマルへの対応は、今後も学校現場において続くものと思われ、今回の経験を基に、有事における多様な状況に対応すべく、自身の更なるスキルアップが必要であると考えるものである。